
eye

ゼクスライド

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

eye

【Nコード】

N7184P

【作者名】

ゼクスライド

【あらすじ】

～eye～

「目！すっごいたくさん。見てた！ずっと見てた。」

日本国内における犯罪件数は、年々増加していた。

警察がどんな手を尽くしても、減少する見込みはなかった。

そんな中、政府が下した決断。

「8月1日より、eye systemを全国でスタートする。我々警察は完全に国民を監視します。」

eye system。政府と警視庁が、極秘で開発を進めていた、監視システム。

それが動きだせば、人間に自由などなくなる。

反発する国民。

eye systemを止めることはできるのか。

自由を守れるのか。

お前らに…やれるのか。

eye第二話

eye第二話「提案」

「なあ、昨日のニュース見たか？」

「あ、ああ。本当にショックだったよ…まさか千葉ロッテマリーンズが6連敗なんてな…」

「だよな…西岡が居なくなつたとたんに…って違うわっ！！成田空港で全国指名手配の大泥棒が射殺された事件だよ！！」

「あゝあつたかもね」

「あつたかもつて…お前アレだろ。新聞開いてもスポーツとテレビ欄しか見ない人だろ」

「…普通では？」

コイツに聞いたのがそもその間違いだった。そう思った。

突っ込みも程々にし、俺は本題を提示する。

「なあ、成田空港いつて調べてみないか？」

第一話

（eye）

第一話「始動」

ウーウー…

鳴り響くサイレン。

「ふっ… たかが日本の警察ごときに俺が捕まるかよ」

盗んだ宝石500万円相当。

ルビーにダイヤ、ピンクサファイアまで見事なまでの荒技。

基本、店員は皆殺し。

最低でも1ケースは持って帰っていた。

仕事を終えた店内は酷い惨劇となる。

コレが奴のやり方。

なぜか逮捕する事が出来ない警察はかなりイラだっていた。

そんなタイミングで奴は来た。

東京銀座。

「あゝあ。今回も楽勝。」

カシヤツ。

鉄編みの扉をあけ、成田空港へと向かう。

盗んだ宝石は持ち込まない。

今度日本に来た時に売ればいい。

あえて自分から危険は起こさない。

「じゃあな、日本。」

そついつて成田空港のターミナルに入った。

…が。

「容疑者ヲ認知シマシタ。全国指名手配犯デス。射殺命令ガデテイマス。」

「…なんだよこいつ。コレは…目？なんで浮いて…」

ドンッ…

成田空港に、赤い血が飛び散った。

この時国民はまだ知らなかっただろう。

東京都が…eye systemの研究地になっていることなど。

e y e 第三話

「なあ、成田空港いつて調べてみないか？」

「ふっ…貴様、ラピユタ王を前にしているのだぞ。口をつつし…ぐはっっ!？」

「可愛い後輩には愛の鞭。目の前のジブリバカには鉄拳制裁!」。

おばあちゃんの最後の言葉です。

「んじゃ決定。明日行くぞ明日!」

「……はい……」

e y e 第三話「潜入」

「翌日」

「なあ潤、コレはなんだい？」

ジブリバカ、斉藤潤の持ってきたリュックに入っていた黒い物体。ぱっとみ拳銃。

「え？拳銃だよ？」

自分の耳を疑う時間がもつたいない。

「…え？拳銃だよ？じゃねーよ！！そんなもん空港に持ち込んでみろよ！！一発で現行犯逮捕だぞ！！」

「だって…」

「だって何だよ！？」

「なんか、すげー奴がいるかもじゃん？俺まだ死にたくないし。自己防衛用だよ！」

意外としつかりした理由で驚いた。

「ほら、健吾もあるよ」

「あ、ありがと…」

こいつ、案外使えるかもな。持ち手に「ムスカ仕様」って書いてあるのが気になるが…

「よし、行くぞ。」

小さく呟き、中学生2人は人がごった返す成田空港内へと、入っていった。

つづく。

eye 第三話（後書き）

三話まで来てやっと主人公の名前ができましたね（笑）

・黒沢健吾…しっかり者で、行動力抜群。基本、突っ込み担当。

・斉藤潤…ジブリバカ。意外と細かいところにも気がつく。家はお金持ち。

どちらも中学三年生。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7184p/>

eye

2010年12月31日07時36分発行